

「創造活動・24時間学校(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(8) 「こわい」を楽しむ「きもだめし」

楽しい時間はあっという間に過ぎてゆくものだ。気がつくと、あたりはすっかり暗くなっていた。今日のメイン・イベントの一つが「きもだめし」である。



きもだめしは、1組のイベント・プロジェクト(イベプロ)が企画・実行する。「おぼけの準備」に時間がかかるので、その間、2・3組の子どもたちは、体育館で「夜のサークルトーク」を楽しんで待っていた。



いよいよ、きもだめしのスタート時刻が近づき、イベプロの担当者が説明に入った。どの子どもも、夜の校舎内を歩くのは初めてである。説明中も、相当に緊張して聞いていた子どもが多かった。

「きもだめし」というのは「怖い」を楽しむという、不思議なイベントだ。「怖いのに楽しみ」という、非常に不思議な精神状態になる。1組の子どもたちは、「怖い」を創り出すために、この3週間努力した。

(9) 理科室が「お化け屋敷」に変身!

1組のイベプロ(34名)は、出発・ゴール6名、

おぼけ18名(匹)、案内10名の分担で、校舎内各所



でスタンバイしていた。「自分たちは2、3組の友達を楽しませる」と割り切って、それに徹していた。

夜の校舎内は、自動点灯の常夜灯がある

ものの、歩くだけで怖い。ましてや、真っ暗な理科室に入ってゆくのは、とても勇気がいる。なかなか入れずに、臆する子どもも多かった。



中には「幽霊」「妖怪」「魍魎」「魍魎」などがウヨウヨうごめいていて、相当に恐ろしい。まだ退勤していない、学年外の先生方も幽霊になってくださった。



ライティングも絶妙で、悲鳴が絶えなかった。3年生は普段理科の授業を、3年教室で行っているので、理科室内の様子を知らないのも、怖さを増させた要因のようだ。あまりの恐怖に、泣き出したり、途中棄権する子どもも出て、きもだめしは大成功だった。